

～実践！安全衛生活動～ 第一弾「健康管理編」

皆様の事業場でも、取り組んでみませんか？

【事業場情報】 T社 / 労働者数：17名
金型製造業、工場は東北にあり、本社（総務・人事・試作品製作等）が、東京東部地域産業保健センターの管轄地域にあります。

「インフルエンザの感染拡大防止の取り組み」

出勤時に体温チェック、37.5℃以上の場合は帰宅させ、受診等回復を優先させる。

続けていくうちに、社員一人ひとりの健康管理の意識づけにも効果が！

【方法】インフルエンザの流行シーズン（11月～翌年2月頃までの間）に実施。

① 出勤時に、会社受付で体温測定を全社員が実施。

ポイント：効率的かつ衛生的に測定するため、
皮膚表面で測定できる体温計を使用→



② 検温シートに一人ずつ実施をチェック→



③ 「37.5℃以上」の場合

→わきの下用の体温計で再測定→「37.5℃以上」であれば



↓
職場に入らずに病院受診または帰宅を促し、
健康回復を優先させる

<体温測定セット>

- ・体温計
- * 皮膚表面用
- * わきの下用



- ・検温記録シート ↑
- ・エタノール入りティッシュ

★取り組みを始めたきっかけ★

2009年の新型インフルエンザが流行した時、工場では重量物も扱うため、体調不良から事故につながる危険もあることから、社内で感染が広がらないための取り組みを試行錯誤。発症した人の情報共有や、社員の家族が感染した時には、その社員と周りの同僚の体温測定を実施するなどの取り組みを経て、2010年頃から上記の取り組みを継続中です。

★取り組みの効果★

- 「体温が37.5℃以上あったら出勤させない」会社方針が浸透した結果・・・
- ・ 37.5℃以上の時は、社員が自ら出勤しない判断・行動をとれるようになった
 - ・ 周りに感染させないことや、健康管理の意識づけにもつながっている
 - ・ 休むことへの、周囲の理解や協力が得られやすい雰囲気になった
 - ・ 職場内でインフルエンザがまん延することがない

特に感染症対策は、一人だけが注意しても
感染拡大を防ぐことはできません。
会社の組織的な取り組みは効果的です！

